

まごとじいじ

もりのすいきん

しようがく いちねんせい

れいわ よねん しがつ

きょうから ようがく いちねんせいになつたよ。
ピカピカのランドセルが うれしいな。
ひらがなを よめるようになつたよ。
カタカナも よめるようになつたよ。
とよしつの ほんも すこしよめるようになつたよ。
まいづき すこしづつ かいていきたいな。

れいわ よねん ごがつ

まいにち くらいニュースが おおいので パパに ゆめのある
よみたい といつたら じいじに おねがいするよう
じいじは にこにこして ひきうけてくれた。
いわれた。

はやく よみたいな。

はじめに

わかばが めばえるように しようがつこうでの せいかつが はじまつた
ね。

くらいニュースばかりなので ゆめのある はなしを かいてほしい とい
うから じいじが すこしづつ かいてあげよう。

こどもの くに

こどもの くには こつきょうが ないのだよ。
こつきょうは おとなが つくつたものだからね。
でも たくさんちいきに わかれているから たくさんちいきの
ことばがあるのだよ。
いまは ほん という ちいきで ほんごで かいているのだよ。
ほんごは とても むずかしいので ほかの ちいきの こどもたちが
いつしょくけんめい しゃべる ほんごを よくきてあげようね。
おたがいに ことばを おしえあえれば すぐに なかよくなれるよ。

れいわ よねん ろくがつ

じいじが こどもの くにを かいてくれた。
おとなが つくつた こつきょうは こどもの くには ないのだから
たくさんちいきの こどもと ともたちに なりたいな。

バベルの とう

おおむかしに にんげんは てんにも とどくような とうを つくつたん
だよ。

ところが かみさまの いかりに ふれて ことばを バラバラにされてし
まつたんだ。

いまでも せかいのことばは ななせん いじょうの しゅるいに わか
れているんだよ。

けんかばかりしていると かみさまの いかりに ふれて しゃべれなくな
ると いけないから きをつけようね。

れいわ よねん しちがつ

じいじが バベルの とうを かいてくれた。

たくさんのはいきで バラバラな ことばを しゃべっているんだね。
おなじことばを しゃべるように なつたら べんりだな。

エスペラントご

おなじ 「ことばを しゃべるように なつたら べんりだとは よいところに きがついたね。

いまから ひやくさんじゅうねんほど まえに エスペラントご」という
げんごが つくられたんだよ。

いろいろな げんごを しゃべる ひとたちが にばんめの げんごとして
つかえるように つくられたんだよ。

そんなに おおくの ひとが つかっている わけでは なきそうだけどね。
じいじも にじゅうねんほど まえに エスペラントごの にゅうもんしょ
を かつて べんきょうしてみたけど もう すっかり わすれてしまった。
また べんきょうしてみると したよ。

れいわ よねん はちがつ

じいじが エスペラントごを かいてくれた。

おなじ ことばを つかえるように つくつたなんて すごいね。

じいじは にじゅうねんまえに かつた にゅうもんしょを よんで ニコ
ニコしているよ。

ぼくも たんさん べんきょうして いつのひか じいじに エスペラント
ごを おしえてもらいたいな。

ゆめ

ゆめのある はなしを かいてほしい ということで はじめたのだが
 んきょうのはなしになつてしまつたので ゆめについて かいてみようね。
 ゆめは かなえるために みるものなのだよ。
 「あきらめなければ ゆめは かなう」といった ひともいるね。
 たしかに かなえるために もくひょうを たてるといいね。
 ゆつくりでいいから あきらめずに もくひょうに むかっていけば ゆめ
 は かなうはずだよ。

れいわ よねん くがつ

じいじが ゆめについて かいてくれた。
 かなえるためみる ゆめ。
 しようらい なりたい しょくぎょう とかかな。
 まだ はつきりとはきめられないけど せんそくなない
 なかになるような しごとが したいな。

へいわ

せんそうのない へいわな よのなかになるような しげ」とが したい とい
いう りつぱな ゆめを もつて いるとは うれしいね。
こどもの くには こつきようが ないので なかよくして いれば へい
わになれるはずだよ。

そのまま おとなになれば へいわなままなのにね。
こどものくには ぼうりよくを つかわないように きめられるといいね。

れいわ よねん じゅういちがつ

じゅうがつは かくのを おやすみしてしまった。
じいじが へいわについて かいてくれた。
ついつい かんがえすぎてしまった。

こどものくにで ぼうりよくを つかわないように きめるには いろいろ
な ちいきの こどもたちが はなし あわないと いけないね。
でも なんさいになつたら こどものくに すめなくなるのかな。
こつきようが できてしまうのは かなしいな。

おとのの くに

こどもの くには ちゅうがつこうを そつきようするまで すめるのだ
よ。

そのあと すこしづつ おとののに うつっていくのだよ。
おとのの くには こつきようが あるので わたしたちは にほんと
いう くにに すんでいることになるね。

こどもの くいで なかよくなつた ほかの ちいきの こどもたちは ほ
かの くにの おとなたちになつていくんだ。

ざんねんだが おとなたちで せんそうを したりするから こどもたちに
かなしい もいを させてしまうね。

こころある おとなたちは ないているのだよ。
すまない すまないと ないているのだよ。

でも なんとかして へいわな せかいにしたい。

それが じいじの ゆめなのだよ。

れいわ ごねん いちがつ

じゅうにがつも かくのを おやすみしてしまつた。

じいじが おとのの くにについて かいてくれた。

こどもの くには ちゅうがつこうを そつきようするまで すめるらし
い。

でも そのあとは おとののに うつっていく。

ほかの ちいきの こどもは ほかのくにの おとなに なつていく。

おとなが つくつた こつきようで わけられていく。

じいじは へいわな せかいにしたいと がんばってくれている。

ぼくたちも ずっと なかよく くらせるように がんばろう。

ふろしき

ふろしきは ものを つつむために つかうのだよ。ビニールや ぬので できているね。

じいじは おおきな ふろしきで セんそうしてくる くにを つつんでし まえなかと かんがえているのだよ。

ぬのではなく セんそうしてくる くにの ことばで できた ふろしきな のだよ。

ふろしきに へいわについて はなしでもらえば セんそうを やめてくれるかもしないね。

そんな ふろしきを じいじは すこしづつ つくつて いきたいのだよ。

らいげつから しようがく にねんせいだね。
しようがく いちねんで ならつた かんじが つかえるよ。たのしみだね。

れいわ ごねん さんがつ

じいじが ふろしきについて かいてくれた。

せんそうしてくる くにを ふろしきで つつんでしまおうなんて じいじ
は かんがえているんだね。

おとなにくいで それができたら ぼくたちが おとなになつても へいわ
でいいね。

へいわになるために おとなが がんばってくれるのを おうえんしていこ
う。

らいげつから にねんせいになるよ。
いちねんせいで ならつた かんじを つかえるようになるから うれしい
な。

小学二年生

はじめに

小学二年生になつたね。おめでとう。
ひらが名やカタカナのほかに一年生でならつた かん字 八十字をつかえる
ね。

じいじも小学校でならう かん字の本をかつて べんきょうしながら かい
ているんだよ。たのしいね。
こん月は じゅうに かいてごらん。

れいわ五年四月

きょうから小学二年生になつたよ。
ピカピカのランドセルの おとうとや いもうとが できて うれしいな。
ひらがなやカタカナのほかに 一年生でならつた かん字 八十字も 使え
るようになつたよ。
としょしつの本も よみつづけていこう。

みこし

あちこち まつりで にぎわっているね。
大ぜいで みこしを かついている。
おもい みこしも みんなで かつげば たのしそうだね。
みんなで 力をあわせて なにか出きるといいね。

れいわ五年七月

じいじが みこしを かけてくれた。
じいじも ことしの まつりで みこしを かついて たのしそうだつた。
ぼくも おとなになつたら みこしを かつぎたいな。
なつは 花火大かいや ぼんおどりもあつて 大ぜいで たのしいな。

なが生き

さいきん　じいじは　なが生きしたいと　おもうようになつた。
小学二年生よりも　六十年ながく　生きているのだけどね。
もつと　いろんなことを　かきたいのだよ。

もつと　きれいに　かきたいのだよ。

ながいきすれば　たくさん　の本を　よむことが出けるからね。
きれいに　かかれた文を　見つけることも出せるからね。

れいわ五年九月

じいじが　なが生きについて　かいてくれた。

じいじは　ぼくより　六十年ながく　生きているのだけど　まだまだ生きて
たくさん　かきたい　ようだ。

ぼくも　じいじが　かいた　本を　たくさん　よみたいから　じいじに　な
が生きしてもらいたいな。

ぼくが　六十さいになるころ　じいじは　百二十さいになるよ。

じいじは　それよりも　なが生きしたい　ようだ。

ぼくも　なが生きしながら　じいじを　おいかけよう。

日本ご

日本人は日本ご という おなじ げんごを つかっているね。
これは とても べんりなことで おかげで日本人どうしの かいわが つ
うやくなしで わかりあえるんだ。

ただし べんりなものだから ついつい くだけた いいかたになってしま
うようだね。

じいじは もともとあつた 日本ごの うつくしい ひょうげんを 学んで
みたくなつた。

いつしょに うつくしい ひょうげんを 見つけられるといいね。

れいわ五年十一月

じいじが 日本ごについて かいてくれた。
ともだちとも ジゅうに はなしが出るのは おなじ日本ごを つかつ
ているからなのだね。

ときどき ともだちと けんかしそうになると ついつい らんぱうな い
いかたになつてしまふ。気をつけよう。
じいじと いつしょになつて うつくしい いいかたを見つけていきたい
な。

やく草

びょう気を なおすことが出きる草を やく草というのだよ。
とても やくに立つ草だね。
なるべく おおくの人が つかえるように そだてているようだね。
じいじの こう校の どうきゅう生で やく学を べんきょうするためには
大学に すすんだ人がいたが どうしているかな。
やく草を見つける人もいれば そだてる人もいる。
草を見るのが たのしくなるといいね。

れいわ六年三月

じいじが やく草について かいてくれた。
氣をつけて 草を見るようになつたけれど やく草を見つけられなかつた。
でも さむい ふゆも かぜが ふきつける中 たえている草は たくまし
いな。
ぼくも たくましく 生きたいな。

おわりに

やく草のはなしは むずかしかったようだね。
四月からは 小学三年生だね。
二年生でならつた かん字 百六十字も つかえるようになり たのしみだ
ね。

小学三年生

はじめに

小学三年生になつたね。おめでとう。
ひらが名やカタカナのほかに一年生でならつた かん字 八十字と 二年生
でならつた かん字 百六十字をつかえるね。
ゆめの話を じいじが書くのを まつていたかもしけないが 自ゆうに 書
いてごらん。

れいわ六年五月三十日

四月から小学三年生になつた。
じいじが ゆめの話を書いてくれるのを まついたら 自ゆうに 書くよ
うにとのことだつた。
じつは 自ゆうに書くのは とくいではない。
じいじが書いてくれる ゆめの話を読んで考えるほうが楽しい。
また ゆめの話を じいじに書いてもらいたい。

自由

自由に書いてごらんと言われて戸まどつたようだね。自分でテーマを見つけなければいけないからね。

でも自分の思う通りに出来るということはす晴らしいことだね。ゆめがかなうかもしれないね。

今でこそ自由になつてゐるけど自由になるために大せいの人ほど力してきたのだよ。

自由に出来ることを楽しんでのびのびするといいね。

れいわ六年八月十六日

じいじが自由について書いてくれた。

生まれてきた時から自由に生活しているからあんぜんと同じで空気のようにあつて当たり前としか考えていなかつた。大せいの人のおかげで自由でいられるのだね。いろいろ考えるとむずかしいけど書いてみるとすつきりするね。ますます自由になつた気がする。

オリンピック

今年はフランスのパリで四年に一どのオリンピックが行われたね。
 三年前の東京オリンピックは かんきやくが いないまま 行われたが、今
 年は かんきやくが おうえんして もり上がっていたね。
 六十年前の十月十日、東京オリンピックの かい会しきが行われたんだよ。じ
 いじは小学三年生だった。

毎日テレビで おうえんしたものだつた。

二十年前に、じいじは ギリシャのアテネに行き オリンピックを見てきた。
 じつさいの キょうぎは 見ごたえあつた。
 今年はフランスでオリンピックを見たかったのだが、ホテルだいとかが 高
 すぎるので テレビで見ることにした。
 しよう来どこかのオリンピックを 生で見られるといいね。

れいわ七年一月五日

じいじが オリンピックについて書いてくれた。
 へんじを書かないうちに 年が明けてしまつた。
 原こうりようとして じいじが たくさん お年玉をくれた。
 ぼくも しよう来どこかのオリンピックを 生で見たいな。
 また日本でオリンピックが行われることになつたら かんきやくが おうえ
 んできるといいな。
 その時は もつと へいわになつていると いいな。

マラソン

オリンピックきょうぎの中ではじいじはマラソンが一番すきだ。
アテネでオリンピックを見た。つぎの年に、じいじはアテネマラソンを走つ
た。

マラソンという名前はギリシャのマラトンという地名から来ている。

二千五百年前にマラトンのたたかいでかつたという知らせをアテネまで

走つてつたえたのだそうだ。

マラソンからアテネまで四十二キロ走つてみると楽しかった。
フルマラソン走るのはじいじのゆめだったのでなおさらうれしかつ
た。

どこかで走られるといいね。

れいわ七年三月三十一日

じいじがマラソンについて書いてくれた。
さすがにマラソンがすきなだけあって今でもじいじがジヨギング
しているのはすごいと思う。
どうしたらマラソンが好きになれるのかな。
こんどじいじに教えてもらおう。
きっとじいじはニコニコして教えてくれるだろう。